

第2回 公開授業研究会 実施報告 — 初級日本語「聴解・会話」クラスの場合 —

鹿 嶋 恵

Report on the 2nd Open-class Workshop: The Case of Listening & Conversation Class in Elementary Japanese

KASHIMA Megumi

〈Abstract〉

The 2nd open-class workshop was held on July 12, 2005. This is the report on its main contents and results of a questionnaire asking participants for comments about it.

The workshop was held at the strong request of local people supporting Japanese language education. Specifically, one basic level Japanese class (1 unit, 90-min.) at the Center for International Students, Mie University, which the writer of this report is in charge of, was open to the applicants (hereafter referred to as “participants”). In order to make the class more meaningful for participants, 50-min. “preliminary briefing” and 55-min. “workshop on the class” were provided before and after the class respectively.

At the end of “the workshop on the class”, a questionnaire was conducted, asking participants for comments. Results showed high satisfaction of participants’ expectations about the class, good evaluations of both “the preliminary briefing” and “the workshop on the class” and much demand for further workshops of this kind.

キーワード：公開授業、聴解・会話クラス、授業前説明会、授業研究会、
地域の日本語学習支援

1. はじめに

2005年7月12日に、地域在住の日本語指導関係者を主な対象者として、第2回公開授業研究会を実施した。これは、2004年1月に行った公開授業研究会「初級日本語授業の実際」に続くものである（cf. 鹿嶋2005）。そもそも前回の企画は、地域で活躍する日本語学習支援者からの強い要望に応じて実施した。形式としては基本的に、本学でごく日常的に行っている日本語授業の一日を公開したものであった。しかし、その反響は予想外の大ききで、継続開催の希望が多く寄せられた。そこで、今回の第2回を開催するに至った。

この報告書では、その主な実施内容と、参加者による評価の結果をまとめる。

2. 企画内容

公開する授業としては、留学生センターで筆者が担当していた初級修了レベルの共通選択科目「聴解・会話」(90 分 1 コマ)を選んだ。授業のテーマは「苦情を言う」である。見学対象となるクラスの受講生 10 名に対しては、事前にこの研究会の主旨と概要を説明し、了承を得た。

参加者の受け入れは、受講生の心理的負担と教室の物理的制約を考慮して、先着 10 名の事前申込み制をとった。受講条件は、① 日本語教育関係者、② スケジュールのすべてに参加できる人とした。

実施場所(教室)は、三重大大学留学生センターの視聴覚室(総合研究棟Ⅱ 2F)である。

なお、参加者の募集方法は主に、ポスター掲示、ホームページ、津市近郊にて活動する日本語学習支援団体へのダイレクト・メールにて行った。

3. 参加者の概要

参加の事前申し込み者は、募集人数にほぼ見合う形となり、最終的には、学内関係者も含めて合計 13 名を受け入れることとなった。参加希望者の背景とニーズを把握するため、申し込みの際に、日本語指導年(月)数と、参加希望理由を記入してもらった。以下、その回答をまとめておく(有効回答数は 10 名。学内関係者は含まれていない)。

3. 1 日本語指導に関わってきた期間

日本語指導に関わってきた期間については、6 年間と答えた人 1 名を除けば、未経験から 3 年間の間に集まった(図 1 参照)。なお、ここには、学内関係者は含まれていない。

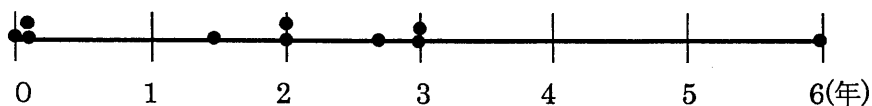


図 1 日本語指導に関わってきた期間

1 点 1 名を示す。

3. 2 参加希望理由

要望や質問に関しては、下記のような内容が寄せられた。以下、申し込み順に挙げる。

- ・プロの教師となって 2 ヶ月半。どうやったら効果的に教えられるか…手探り状態です。ヒントをたくさんいただければと思います。

- ・現在ボランティア教室で初級学習者に文法と会話を教えていますが、自分の教え方に自信がありません。そこで研究会を通してこれまでの教え方を見直し、より効果的な教え方を考えていきたいと思っています。
- ・外国の方に日本語を教えるボランティアをしています。是非、授業を参観させて頂きたいと思います。
- ・勉強の仕方、進め方等教えて頂ければ嬉しいです。
- ・昨年も参加させて頂いて勉強になったので、今年もぜひ勉強させて欲しいと思います。
- ・初心者ですので、勉強したいと思います。
- ・今まで台湾、オーストラリア、ドイツからの留学生をホームステイさせた経緯から今回のプログラム参加を希望する。
- ・いろいろな講座、研究会などに参加してスキルアップを図りたい。

4. 実施内容

以下、「授業前説明会」「授業見学」「授業研究会」の順に、実施内容をまとめておく。

4. 1 授業前説明会

「授業前説明会」では、下記の(1)～(6)の内容について説明をした。

(1) 当留学生センターの日本語教育コースの紹介

今回の見学対象となるクラスを含め、当留学生センターで開講されているすべてのコース／クラスの位置づけ、および特色を説明した。

(2) 「聴解・会話」クラス（共通選択科目：初級レベル）の紹介

このクラスは、1学期（15週間）完結の選択科目である。本学の日本語レベル判定試験の結果、初級基礎Ⅱおよび中級Ⅰレベルに判定された学生が、自由に選択できる。2004年度前期（4月）に開講して以来、今学期（2005年度後期）で3期目を迎えている。

開講当初（1期目）、機能・場面シラバスを中心とした中級入門レベルのカリキュラムを準備していた。しかし、実際の受講生の中には、初級後半レベルの内容の定着が悪い人、また初級後半レベルを履修中の人かなり混じっていた。そのため、2004年度後期（2期目）より、レベルの焦点を初級後半に移し、授業の始めに初級後半レベルの文法項目の復習時間を設けることにした。これにより、本来の目的である聴解・会話練習にスムーズに入れるようになった。

3 期目（2005 年度前期）の現在、対象とする日本語のレベルは、初級終了レベルである。受講生は 10 名で、大半が中級 I レベルの学生であるが、一部初級後半レベルの授業を履修中の学生も含む。主なシラバスおよびカリキュラムは、表 1 の通りである。

表 1 2005 年度後期「聴解・会話クラス」のシラバス & カリキュラム

回	テーマ Topics		かいわ※	文法項目 Grammers
第 1 回	道を案内する	Giving Directions	第 23 課	～てください、～と、～ている、
第 2 回	病気	Illness	第 32 課	～ほうがいい、～かもしれない
第 3 回	ごみの出し方	Rubbish disposal	第 26 課	～たらいい、～てもいい、 ～てはいけない
第 4 回	忘れ物	Lost property	第 29 課	～してしまう、～ている、
第 5 回	あやまる	Apologize	第 39 課	～て、～ので、自・他動詞
第 6 回	申し出る	Offer	第 24 課	V-くれる／もらう、 ～ましょうか、
第 7 回	依頼する	Request	第 41 課	～ていただく、～てくださる
第 8 回	依頼を断わる	Refusing a request	第 28 課	～し、～し、～けど、～から
第 9 回	計画を話す	Telling a plan	第 31 課	意向形
第 10 回	復習	Review		
第 11 回	苦情を言う	Complaint	第 46 課	～ばかり、～はず、～のに
第 12 回	案内する	Guide	第 37 課	受身形
第 13 回	電話で伝言する	Leaving a message	第 49 課	尊敬語
第 14 回	期末試験	Final examination		
第 15 回	試験返却・別れ	Feedback・Farewell	第 25 課	～たら、～ても、謙譲語

※「かいわ」:『みんなの日本語 初級 I II』（スリーエーネットワーク）にある「会話」の対応課を示す

このクラスの授業の目標は、次の 2 点である。

- 1) 初級後半レベルの日本語会話を聞いて、理解する力をつける。
- 2) 場面や話題に合わせて、簡単な日本語会話ができる力をつける。

教材は、導入のために『みんなの日本語 初級 I II』（スリーエーネットワーク）にある「会話」を毎回取り上げることにした。その理由は、次の 2 点である。

- a) この教科書で初級レベルを学習した（学習している）受講生が多く、既習の学習内容と記憶や意識をリンクさせやすいため。

- b) 逆に、初級レベルの学習当時にはこの教科書を使いながらも、ほとんどの場合が、この「会話」のページ部分は大雑把な指導しかを受けていないため。

ただし、この「会話」部分を教材として取り上げる際には、そのまま使うのではなく、講師（筆者）が加工を施した。これにより、復習対象の文法項目を意識させながら、聴解練習、会話練習を行うことを意図した。なお、この「会話」に対応させて、聴解用 CD（『みんなの日本語 初級ⅠⅡ 聴解 CD』スリーエーネットワーク）、ビデオ（『みんなの日本語 初級ⅠⅡ 会話ビデオ』スリーエーネットワーク）を毎回使用している。

その他には、シラバスの場面や機能に合わせて、いくつかの市販教材から選び出し、使用している。授業見学の日に使用した教材は、下記の通りである。

- ・『みんなの日本語 初級Ⅱ 聴解タスク 25』（スリーエーネットワーク）46 課より抜粋（←ただし、実際には使用できず）
- ・『にほんごきいてはなして』（ジャパントイズ）第 24 課より抜粋・加工

また、特に当日の学習項目「～たばかりだ」「～ばずだ」に関しては、中国人学習者のうち若干名が未習の可能性があった。そのため、『みんなの日本語 初級Ⅱ 文法解説・翻訳』（スリーエーネットワーク）46 課より、該当説明部分を抜粋して教材に加えた（しかし結局、当日に受講生全員既習であったことが判明）。

(3) 見学する授業の内容

今回の授業の内容として、下記の 3 点を説明した。

- a) 授業テーマ： 苦情を言う
- b) 目標：①自分が置かれている不都合な状況を、日本語によって表現することができる。
- ②相手の気持ちや立場に配慮して、苦情を訴えることができる。
- c) 主教材：『みんなの日本語 初級Ⅱ』（スリーエーネットワーク）第 46 課 「会話」

(4) 今回の授業の主な流れ

今回の授業で、講師が準備している主な流れ（授業計画）として、次の概要を説明した。

I 会話のパターンを学ぶ

- ・ビデオ視聴による状況理解
- ・テープによる会話の書き取り
- ・会話練習（シャドウイング、役割練習）

II ステップ・アップ

- 新しい文法項目の確認
- 部分会話練習
- 聴解練習

III 応用会話練習① 場面練習〈ホテルのフロントへ苦情を言う〉

IV 応用会話練習② Dict-a-Conversation⁽¹⁾〈マンションの管理人へ苦情を言う〉

V まとめ

(5) 授業の観察ポイント

授業見学の際には、その効果を高めるため、事前に自分自身で「何が見たいのか？」という焦点を定めておくことを薦めた。

特に指導経験年数の短い参加者がいることを考慮して、授業には「基本的な流れ」が存在すること、また経験の浅い教師に見られる課題として、a)指導全体を見通した流れがないこと、b)指導の各部分（説明、練習…）が貧弱であることを説明した（cf. 丸山 1990, 丸山 1995 : 200）。そして、「何が見たいのか？」が定められない場合には、この授業の流れの中で「いかに難度を上げていくか」を観察してみることを薦めた。

(6) 授業見学をするときの注意（お願い）

授業見学をするときの最低限のマナー（注意）として、学習者のプライバシーを尊重すること、授業中の私語を自粛することを依頼した。

4. 2 授業見学

「授業見学」の当日は、予め学習者の後部に椅子を設置しておき、参加者（見学者）には直接そちらへ座ってもらった。当日、大学院入学試験が間近であったこともあり、受講生 10 名のうち 3 名が欠席、出席者は 7 名であった。

授業の内容については、表 2 の授業記録を参照されたい。

授業前説明会で示した授業計画に比べ、実際の授業で変更された主な点は、次の 2 点である。

- 1) 会話練習の一形態として、通常行っている「シャドウイング」を予定していた。しかし、これをリピーティング練習にとどめ、難しい部分を重点的に練習した。その理由は、講師の予想に反して学習者の口頭練習の反応が鈍かったこと、また会話部分を前半と後半に分けて導入したため時間的制約が生じたことがある。

表2 授業記録 (2005年7月12日 7~8限目 14:30~16:10)

T: 講師, L: 学習者(受講生)を示す。

時間	流れ	教材	活動内容
14:34	導入のティーチャートーク		Lと参観者の簡単な紹介、Lに対する授業見学の主旨説明。
14:37	ビデオ視聴による会話場面導入(前半)	ビデオ	会話場面(前半)の導入。ビデオ視聴の途中で一時停止しながら、語彙を導入。状況理解の確認・説明。
14:41	テープによる会話の書き取り	プリント(会話) 聴解テープ	テープを止めながらプリントに会話文の書き取り。指名されたLが答を板書。クラス全体で添削。各自、答え合わせ。難しかった3番をテープを聴き直して確認。
14:49	音読(リピーティング)	プリント(会話)	テープに続けてリピーティング。難しい部分を取り出して、反復口頭練習。
14:52	音読(役割練習)	プリント(会話)	T対L(クラス)で役割練習。
14:54	ビデオ視聴による会話場面導入(後半)	ビデオ	会話場面(後半)の導入。ビデオ視聴の途中で一時停止しながら、語彙を導入。状況理解の確認・説明。
14:56	テープによる会話の書き取り	プリント(会話) 聴解テープ	テープを止めながらプリントに会話文の書き取り。指名されたLが答を板書。クラス全体で添削。各自、答え合わせ。
15:00	音読(役割練習)	プリント(会話)	T対L(クラス)で役割練習。
15:01	新しい文法項目の確認「～ばかりです」	プリント(問題1.)	意味、形の作り方の説明。口頭練習。
15:10	新しい文法項目の確認「～はずです」	プリント(問題2.)	意味、形の作り方の説明。口頭練習。
15:13	部分会話練習 場面練習	プリント(問題2.)	Lがペアになり問題2.を使って部分会話練習。その後、Tが応用場面を提示して、場面練習。
15:16			(聴解練習の予定であったが、講師の準備の不幸際で取りやめ)
15:18	応用会話練習① 〈ホテルのフロントへ苦情を言う〉導入	プリント(Task1)	プリントの絵を見ながら状況と語彙確認。会話文をクラスで考える。状況に合わせて自動詞・他動詞の選択の違いを確認。
15:30	場面練習	プリント(Task1)	Lがペアになり会話練習。その後、Lと参観者がペアになり会話練習。
15:36	応用会話練習② 〈マンションの管理人へ苦情を言う〉導入	プリント(Task2)	異なるLのペアを組む。例の絵を見ながら状況と語彙確認。
15:41	Dict-a-Conversation	Dict-a-Conversation の記入シート	TがBの会話文を読み上げ、Lが書き取る。Tが正答を板書。LはAの会話文を考える。LがAの会話文を発表。クラスで添削。TがB、LがAで役割練習。
15:56	ロールプレイ	プリント(Task2)	練習問題の絵を見ながら語彙と動詞の受身形の確認。その後、Lと参観者がペアになりロールプレイ。
16:07	まとめ	板書	応用会話練習②の会話部分を取り出し、今日学習した文法項目の確認。
16:10	終了		

- 2) 聴解練習用に聴解問題と CD を準備していたが、講師の準備の不手際で、これを取りやめた。

4. 3 授業研究会

「授業研究会」では、授業見学の内容を元に、まず講師への質問から出してもらった。そこから、派生的にいろいろな質問や疑問点、意見などが出されてきた。特に、今回参加した学内関係者は日本語教育経歴が長かったため、それらの人々の意見を聞くことで、話し合いの内容が深まったようである。

主な質問と、それに対する意見（筆者と参加者）を簡単にまとめておく。

Q1：授業の中で、自動詞・他動詞の区別を確認する質問が何度か行われていたが、これは自然に分からせる方がいいのでは？ …A1：自動詞・他動詞の区別は、明確なルールがなく、中級になってもなかなか定着しないところである。自然にわからせる（習得させる）のは非常に難しく、折りに触れて復習を積み重ねていく必要がある。

Q2：「教える」と「教わる」の違いは？ …A2：「教わる」は、初級レベルの日本語教育では扱わない。

Q3：数字「7」の発音、「しち」と「なな」の使い分けは？ …A3：教科書によって扱いに違いがあるが、たとえば『みんなの日本語 初級 I』（スリーエーネットワーク）では、どちらも挙げてある。

Q4：助詞「～に」と「～へ」の違いは何か？ …A4：一般に、「～に」は移動の対象、「～へ」は移動の方向を示すとされている。

Q5：助数詞の効果的な教え方は？ …A5：基本的なものから教える。一度に「1～10」の助数詞が正確に言えることを期待しないこと。少なくとも「1～3」が言えれば、日常会話では大体事足りる。後は、機会に応じて復習していけばよい。日本文化の特質のように捉えられがちだが、中国語ではさらに複雑な体系あり。助数詞よりももっと重要な学習項目がたくさんある。

Q6：今日の学習者が夜に自宅へ帰ったら、どのような日本語使用環境なのか？ …A5：留学生会館、アパートなど。ホームステイはほとんどなし。基本的に、日本人と日本語で会話するような環境にはない。

その他、感想としては、以下の内容が挙げられた。

- ・学生のレベルがすごい。
- ・学習者の何人かは中国人学生であったのに、バラエティに富んだ答えを考えていたの

が印象的だった。

- ・講師が非常によく授業の中で学習者を褒めていた。

5. 参加者による評価

授業研究会の最後に、今回の研究会の内容に関して、質問紙による評価を参加者に依頼した（有効回答数 13 名）。以下、その回答を、選択肢回答と、自由記述回答の別にまとめておく。

5. 1 選択肢回答

まず、授業前説明会、授業見学、授業見学後の研究会について、参加意義や満足度を尋ねた。次の表 3 は、その質問項目と結果をまとめたものである。

表 3 選択肢回答による研究会への評価

〈 〉 内は選択回答者数を示す。

1. 授業前の説明会についてお尋ねします。

1-1. このような説明会に参加したことについて、いかがでしたか。

- a. とても意義があった… 〈12〉 b. 少し意義があった… 〈1〉
c. ふつう… 〈0〉 d. あまり意義がなかった… 〈0〉 e. 意義がなかった… 〈0〉

1-2. 話のわかりやすさは、いかがでしたか。

- a. とてもわかりやすかった… 〈11〉 b. わかりやすかった… 〈2〉
c. ふつう… 〈0〉 d. 少しわかりにくかった… 〈0〉
e. わかりにくかった… 〈0〉

2. 授業見学についてお尋ねします。

2-1. 授業の内容は、いかがでしたか。

- a. とても参考になるところがあった… 〈10〉
b. 参考になるところがあった… 〈3〉
c. ふつう… 〈0〉
d. あまり参考になることがなかった… 〈0〉
e. 参考になることはなかった… 〈0〉

2-2. 授業見学前に持っておられたご自身の期待感は、実際の見学によって、どの程度満たされましたか。

- a. とても満足した… 〈5〉 b. かなり満足した… 〈8〉 c. ふつう… 〈0〉
d. あまり満足できなかった… 〈0〉 e. 満足できなかった… 〈0〉

3. 授業見学後の研究会についてお尋ねします。

この話し合いに参加したことについて、いかがでしたか。

- a. とても意義があった… 〈10〉 b. 少し意義があった… 〈2〉
c. ふつう… 〈1〉 d. あまり意義がなかった… 〈0〉 e. 意義がなかった… 〈0〉

表3の結果から、授業前説明、授業見学後の研究会についてはともに、意義をかなり高く評価されたことが見てとれる。

それに対して、授業見学については、いくぶん傾向が異なる。特に、2-2の質問、授業見学前に持っていた自身の期待感が実際の見学によりどの程度満たされたかという質問に対しては、「とても満足した」よりも、「かなり満足した」の方が回答数を上回っていた。その理由としては、参加者のそれぞれが様々な学習（教育）形態や教育経歴年数を持ち、それらが多様な期待感として抱かれていたことが考えられる。

5. 2 自由記述回答

自由記述回答での質問項目の主な内容は、「今回の研究会でよかったと思うこと」「残念に思ったこと」「意見や要望」の3点である。以下、順にまとめておく。

(1) 今回の研究会で、よかったと思うことは、どんなことですか。

大別すると、授業の進め方や教材に関する内容、授業全体に関する内容、およびその他、の3種が挙げられていた。

〈授業の進め方や教材に関する内容〉

- ・実際の授業を見せていただいたことです。VTR、テープの使い方、プリントの作り方（既成のものに手を加える）etc. の教材のあり方から、実際の進行（どこで文法を入れるか、どうやって学生を巻き込んでいくか etc.）—— 全てが勉強になりました。ありがとうございました。
- ・最後に学生が自由に会話できるところまで上手に持っていかれて、とても良かったです。Dict-a-Conversation も興味深く、また取り入れてみたいと思いました。
- ・日本語の教え方（説明の仕方）がよく解った（例 Dict-a-Conversation など）。
- ・教材の工夫と指導過程の工夫を知ることができた。参加者の人たちの学びの雰囲気がとてもよかった。勉強になった。
- ・会話・聴解の授業の進め方について、貴重なヒントがいただけたと思います。
- ・会話についての教授法がよくわかった。

〈授業全体に関する内容〉

- ・自分が教える立場と学ぶ立場の両方で見ることができたこと。
- ・接授業を見せていただき、雰囲気を肌で感じることもできたこと。
- ・どんなに書物を読み込んでも、現場の授業を見せていただくに勝るものはない。

〈その他〉

- ・外国の人に意志を伝える事の難しさ、また、簡単に説明する事が大事であるという事…。

- ・事前の説明会と授業後の話し合いがあった点。
- ・聞くということについて考えねばと思いました。
- ・初めての参加で、話が聞けてよかったです。

(2) 今回の研究会で残念に思ったことは、どんなことですか。

これについては、下記のように、意見に散らばりが見られた。参加者それぞれの期待や意識そのものが多様であることの表れとも読み取れる。

- ・先生もおっしゃいましたが、文法が既習の上での会話クラス ―― という設定でしたので、導入ー練習というプロセスが拝見できなかったことでしょうか…。しかし、本日その他の部分を見せていただけて充分です。
- ・今日（当日）までに何か課題があってもよかったのでは…と思いました。（考える参考に）。
- ・私自身が前もってテキストの内容を読んでから出席した方がさらに彼らの対話の相手たり得たと思う。
- ・もう少し、生徒さん達と会話をしたかった。
- ・学生さんとの交流の場をもちたいと思うのは無理でしょうか。
- ・学生の数、国籍など、がもう少しいたら良かったかも。

(3) その他、ご意見やご要望などがございましたら、自由にお書きください。

この質問に対する回答で多かったのは、下記のような、謝辞を含めた次回以降の開催希望であった。

- ・勉強会を定期的に開いていただきたいです。
- ・来年もありましたら、ぜひまた参加したいです。
- ・白熱した授業を見せていただきありがとうございます。また、見せていただきたいです。
- ・継続して来年も参観させていただきたく存じます。
- ・もうこの会はないのかな？ということ、もっと教えてほしい。ありがとうございます。
- ・またの機会も参加したいです。その節は（学生との交流の場を持ちたいということに）考慮していただければ幸いです。
- ・参加させていただき、本当にありがとうございました。次回を期待しています。お疲れ様でした。

- ・貴重な体験をありがとうございました。これからの学習に役立てたいと思います。

その他の要望としては、下記の3件が挙げられていた。

- ・まだまだ（※授業研究会で話題になった）言うてはいけないことがわかっていないので、基本的にこれは言わない、教えないという点を教えていただきたいです。
- ・日本語教師を対象とした研究会もぜひ開いていただけたらと思います。
- ・文法 etc. まとめて学習できる（指導者が）書物の紹介などを教えていただくとうれしかったです。

6. おわりに

第2回になる今回の企画は、初回ほどではないにしろ、やはり手探りの状態で準備を進めてきた。前回の終わりには継続開催の要望があったものの、実際に企画するに際しては、果たして本当に求められているのだろうか、本当に地域の方々の役に立てるのだろうか、という不安が絶えず筆者の心につきまとっていた。

しかし、研究会を終えて一息つき、やはり開催してよかったのではと思うことができた。研究会後にいただいた評価内容を見る限り、今回も、参加者の皆さんがそれぞれに自分の視点から、何らかのことを汲み取っていただけたようである。加えて、筆者自身にとっても、自分の授業や勉強を見つめ直す格好のきっかけとなった。時間をおいて再生した記録ビデオにも、反省材料がたくさん詰まっていた。自らの恥に縮み入り、申し訳なく思うと同時に、次に同じ事を教えるならと思いを先に巡らせている。

この研究会の運営方法、講師の選定など、限界や問題が多いことは十分承知している。日本語教育に関わる人の立場からすれば、いろいろな教師の、いろいろな授業が見てみたいというのが率直な気持ちであろう。その気持ちに応えるには、筆者の力不足を痛感している。筆者自身、これまで何人もの先生に無理なお願いをし、聞き入れていただいていた。しかしその経験は今、何物にも代え難い財産となっている。それだけに、たとえ十分ではないにしても、自己成長を求める人々に何からの形で学びの場を提供していくことができればと思う。

謝辞

前回に引き続いて今回の企画を実施するに当たり、多くのご支援とご協力をいただきました皆様に、深く感謝申し上げます。また、当日参加いただいた方々にも改めて御礼申し上げます。

注

- (1) 「Dict-a-Conversation」という会話練習方法は、1990年国際基督教大学にて行われたサマーコースにて同僚だった講師から教えられたものである。ロールプレイに入る前にこの練習をしておけば、スムーズにロールプレイに取り組めるという利点がある。

引用文献

鹿嶋恵（2005）「日本語授業の一般公開の試み ―公開授業研究会「初級日本語授業の実際」実施報告―」『三重大学留学生センター紀要』第7号, pp.105－120.

丸山敬介（1990）『経験の浅い日本語教師の問題点の研究』創拓社

丸山敬介（1995）『日本語教育演習シリーズ⑤教え方の基本』凡人社